

# 論文の和文要旨

氏名                     滝沢 洋平                    

## (博士論文の題目)

小学校体育授業のベースボール型ゲームにおける  
児童の技能及びゲームパフォーマンスに関する研究

## (博士論文の要旨)

本研究の目的は、小学校体育授業において、中学年と高学年を対象として、発達段階を考慮したベースボール型ゲームの教材を用いた授業実践を通して、その成果を明らかにすることであった。その際、児童の投能力と打能力の技能及び守備者のゲームパフォーマンスを評価できる評価方法の開発も行い、児童の投能力、打能力、守備者のゲームパフォーマンスの変容を検証していくこととした。加えて、実践毎の成果を比較検討することで、ベースボール型ゲームの学習の可能性を検討することである。こうしたことを検討することで、今後、ベースボール型ゲームの実践研究をする上での基礎研究になると考えた。

そこで序章では、戦後以降のベースボール型ゲームの実践研究並びに報告についての確認と成果の評価についてまとめ、課題の確認を行った。近年のベースボール型ゲームの実践は、ベースボール型特有の技能の向上を重視する方向とゲーム内における状況判断力の向上を重視する方向が大きな潮流となっており、この両者の方向の実践の成果の検証を行う必要があることがわかった。また、成果の評価を行う分析方法として、動作の観察的評価法とゲームパフォーマンス評価法があるものの、先行研究で使われているものは課題があることから、再検討する必要があることがわかった。

そのため、第1章では、分析方法に関する検討を行った。はじめに、投動作と打動作の観察的評価基準を作成し、妥当性、客観性、信頼性から検討を行った。次にベースボール型ゲームにおける守備者のゲームパフォーマンスの分析基準を作成し、信頼性と客観性の視点から検討を行った。その結果、作成した投動作と打動作の観察的評価基準は、一定の妥当性、信頼性及び客観性、作成した守備者のゲームパフォーマンスの分析基準は、一定の信頼性及び客観性を有していることが明らかとなった。そのため、第2章と第3章の分析方法として使用することとした。

第2章では、児童の投能力や打能力の向上を重視した実践を中学年と高学年

## 様式3号

で行った。そのため実践では、投能力と打能力の向上を意図したドリルゲームや打者の進塁を阻止するために守備者の送球を必要としたメインゲームを行った。また、第1章で検討した分析方法を用いて、児童の投能力（ソフトボール投げの遠投距離、投動作）と打能力（ペットばせゲームの得点、打動作）、メインゲームにおける守備者のゲームパフォーマンスから、学習成果を検討した。その結果、中学年及び高学年の実践において、投能力、打能力、守備者のゲームパフォーマンスの向上が明らかとなった。第2章をまとめると、技能の向上を重視する実践を行う際、どのような技能を児童に身につけさせたいのかを特定し、その技能が身につくような活動を準備する。また、その技能が発揮できるメインゲームを準備するという点を再認識させるものであった。なお、児童の技能や守備者のゲームパフォーマンスが向上することが明らかになったことから、技能の向上を重視する実践は、ベースボール型ゲームの授業の方向性として有効であるといえる。

第3章では、児童の状況判断力の向上を重視した実践を中学年と高学年で行った。そのため実践では、打能力の向上を意図したドリルゲームや、チームでのコートを使つての練習、さらには、打者の進塁を阻止する時に守備者がどこでアウトにするかという判断を必要としたメインゲームを行った。また、第2章と同様に学習成果を検討した。その結果、中学年及び高学年の実践において、打能力、守備者のゲームパフォーマンスの向上が明らかとなった。第3章をまとめる、状況判断力の向上を重視する方向の実践を行う際、どのような状況判断を児童に身につけさせたいのかを特定し、そのゲームパフォーマンスが身につくような活動を準備する。また、そのゲームパフォーマンスが発揮できるメインゲームを準備するという点を再認識させるものであった。なお、児童の技能や守備者のゲームパフォーマンスが向上することが明らかになったことから、状況判断力の向上を重視する実践は、ベースボール型ゲームの授業の方向性として有効であるといえる。

結章では、第2章と第3章で行った実践の特徴と留意すべき点を確認した後、本論文の結論として、授業を行う教師が児童に何を身につけさせたいのかを決定し、それに見合った学習活動を設定し、学習活動の反復によって身につけさせること、身につけさせたものをメインゲームで発揮し、高めることができるように学習活動につながりをもたせることが大切であることが明らかとなった。また、授業の中で児童にとって、すぐに身につくものとそうでないものがあるということは、本研究の結果からも明らかとなっており、教師がベースボール型ゲームの実践を行う際に、授業のイメージだけではなく、授業で使用する教材選択をすることが大切であり、その選択をする際に、本研究で示した結果を1つの指標にすることができる。

様式 3 号